

# 生活物資の不足、環境改善、将来不安を訴え

# 被災者に寄り添う支援が必要



大震災から4カ月が経ちましたが、民主党政権のもたつきと、自民・公明の党利党略で、救援・復旧・復興が立ち後れ、被災者への支援が遅れています。

こうしたなかで、日本共産党震災・救援センターは、被災者に寄り添った支援をすすめるため、「聞き取り隊」の活動をすすめています。7月2日～9日に14カ所で行った聞き取り、287人と対話をおこない、要望などを聞き取りました。

「米、トイレトペーパー、ティッシュ、殺虫剤、赤ちゃん用紙おむつ、ミルクが足りない。」と物資不足の訴え。

「ハエやアリが多い。玄関に網戸を。水たまりの改善」など環境改善を求める要望。

「仮設住宅の退去期限の2年後が心配。」

## 石巻商工会議所に義援金



配。自宅が全壊したが建てて良いのかわからない。」など将来の暮らしへの不安を訴えています。

### 【被災者の訴えから】

◎被災した自宅の2階に寝泊まりしながら、避難所で食料をもらっている。

◎雨の日に仮設住宅の玄関から水が入るので、ひさしをつけてほしい。

◎経営している水産加工場が流され、再建のためには二重ローンになるので国の支援がほしい。

◎子どもは高校入学が決まっていたが、働くため6月に中退した。

◎活魚運送業をやっているが、原発風評被害で三陸の魚は半値以下に。いまは三重県まで行って仕入れて仙台に納めているので経営は厳しい。

7日、漁業復興の課題を調査するため石巻にきた日本共産党紙智子参院議員は、表浜地域の漁師と懇談しました。

また、日本共産党が集めた義援金を石巻商工会議所に渡しました。(写真)

## 片付け隊奮闘中



「みなさんのおかげで工場再建にすめると喜んでもらっています。」

## 「共産党はがんばっているね」 気仙沼・反松仮設

気仙沼市委員会に設置しているボランティアセンターでは、8日、「ハーモニカ希望」と要望が寄せられた漁師さん(大震災で親戚5人を亡くし、仮設に入居)を訪問。部屋にあげてもらい、ジュースをこっそりになりながら、話を聞きました。その人は、「年4千円の党費を払っている自民党員だが、自民党は避難所にも来ないし、お見舞いメールすらない。民主党もおこっている。」「共産党はがんばっているね」と逆に励まされました。

## 猛暑のなか、全国からの物資をお届け中



かき水も好評

NEWS

日本共産党 震災・救援センター

2011/7/13 51号

石巻市南中里4-7-17 ☎22-6335 FAX22-6892

お困りごとなど

お気軽に連絡ください